

1. はじめに

今年度は、昨年度までお引き受け頂きました梶原裕隆専門部長から新たに山下秀司先生(伊万里高等学校長)に本専門部部長をお引き受け頂きました。また、新たに荒木宏文先生(敬徳高校)と仁部智之先生(有田工業高校)が加わりました。昨年に引き続き陸上競技の基本である「走」「跳」「投」すべての専門家が揃いました。本年度は57年ぶりに東京オリンピックが開催され、日本中が日本選手団の活躍で大いに盛り上がりを見せました。本専門部からも3名がオリンピック・パラリンピックの競技審判員として参加し、世界トップの動きを生で見せてきています。今後はその経験を佐賀県の選手に伝えてもらえるものと思います。一方で、新型コロナウイルス感染拡大がなかなか収まらず、県内大会はすべて無観客での開催となりました。そのような中でも選手たちは大会が開催されることを信じ、ひたむきに努力している姿が印象的でありました。また、佐賀陸上競技協会を始め、多くの方々に競技運営面、また選手の競技力向上にご協力を頂きました。この場を借りてお礼を申し上げます。

2. 今年度を振り返って

本年度の全国高校総体北九州地区予選会(大分)では男子では100mで田中翔大(佐賀工業高校3年)が10"53で優勝。田中は200mでも2位。1500mで間瀬田純平(鳥栖工業高校3年)が3'49"17で優勝。間瀬田は5000mでも4位。3000m S Cで西坂侑(鳥栖工業高校3年)が9'07"43で優勝。同じく3000m S Cで上田大樹(鳥栖工業高校3年)が9'11"79で5位。4×100mRで佐賀工業高校(江口大翔3年・田中翔大3年・フェルナー英輝3年・末次拓海3年)が40"86で優勝。八種競技で小野颯大(龍谷高校3年)が4986点で2位。200mで川崎秀智(武雄高校2年)が21"43で3位。5000mWで小野圭貴(鳥栖工業高校3年)が22'31"23で3位。走高跳で小野光槻(龍谷高校3年)が1m91で4位。三段跳で林田悠吾(龍谷高校3年)が14m20で4位。同じく三段跳で山口源太郎(武雄高校2年)が14m17で5位、石隈啓志(佐賀北高校3年)が14m07で6位。棒高跳で川久保賢斗(龍谷高校3年)が4m10で6位。総合成績で鳥栖工業高校が21点を獲得し、総合8位(トラック総合3位)に入賞しました。女子では100mで永石小雪(佐賀北高校3年)が11"76の大会新記録で優勝(県高校総体で佐賀県高校新記録)。400mHで江口蘭琉(佐賀清和高校2年)が1'01"81で2位。江口は200mでも6位に入り、全国総体への出場権を獲得しました。1500mで小松夕夏(唐津東高校3年)が4'24"42で2位。小松は800mと3000mで5位に入り、3種目で全国総体への出場権を獲得しました。5000mWで野口のか(伊万里実業高校3年)が24'32"77で2位(県高校総体で佐賀県高校新記録)、やり投げでは中田真瑚(佐賀商業高校2年)が44m72で2位。200mで濱部莉帆(伊万里実業高校2年)が24"78で3位。100mHで富永真樹(致遠館高校3年)が14"49で4位。砲丸投げでは久原ひなた(武雄高校3年)が11m26cmで6位。男女で個人4種目とリレー1種目の優勝でした。年度当初の目標であった「北九州地区予

選会で5種目の優勝」を達成することができました。また、男子11種目(のべ16名)、女子10種目(のべ8名)の入賞を果たし、全国総体に出場することができました。

福井県で開催された全国総体では男子200mで田中翔大(佐賀工業高校3年)が20"84で優勝。女子100mで永石小雪(佐賀北高校3年)が11"65で優勝という快挙を成し遂げました。全国のスプリントを佐賀県が席卷してくれました。男子1500mでは間瀬田純平(鳥栖工業高校3年)がハイレベルなレースの中でも自身が持つ県高校記録を更に更新し3'42"22で3位。男子3000m S Cでは西坂侑(鳥栖工業高校3年)が9'00"86で5位。4名の選手が全国総体で入賞を果たしました。永石は全国総体前に行われた、U20日本選手権女子100mにおいても、大学生に競り勝ち優勝しました。

全国高校総体優勝2名、入賞2名の合計4名の入賞者を出すことができたことは2024年に開催される、北部九州全国高校総体、国民スポーツ大会につながっていくものだと確信しています。今後も引き続き、全国大会での入賞を目指し、様々な競技力向上事業を展開していきます。

3. 最後に

来年度に入学してくる学年が高校3年時に佐賀県で国民スポーツ大会が開催されます。第1回の国民スポーツ大会となる大会に向けて、選手の発掘・競技力向上・新たなスポーツ文化の育成に向けて、佐賀陸上競技協会、佐賀県スポーツ協会、佐賀県高等学校体育連盟事務局のサポートを頂き、専門部が一丸となって頑張っていきたいと思えます。SAGA2024国民スポーツ大会を契機にして、佐賀県から日本代表選手が出てくれるように、高校生アスリートの部活動環境を支えていきたいと思えます。

